

# 魅力ある学校づくり協議会(板橋第九小・ 中根橋小・板橋第一小) ニュース

第7号

発行日：平成 27 年 9 月 15 日  
開催日：平成 27 年 8 月 31 日  
発 行：板橋区教育委員会事務局  
新しい学校づくり課  
学校配置調整担当課長  
電話 3579-2090

## 第 7 回協議会内容

平成 27 年 8 月 31 日に仲宿地域センターレクレーションホールにて第 7 回協議会を開催しました。第 7 回協議会では、「いたばし魅力ある学校づくり協議会(板橋第九小・中根橋小・板橋第一小)における基本的な考え方」(事務局案)に対してご意見等をいただきました。

### 1.いたばし魅力ある学校づくり協議会(板橋第九小・中根橋小・板橋第一小)における基本的な考え方について(事務局案)

#### 《統合にあたっての留意事項》

- 1 3校については、必要に応じて交流事業やイベントについて積極的に行っていく。
- 2 学校統合の際には、通学している児童の希望を第一に考え、統合校以外も含め、原則隣接した学校に通学できるように配慮する。
- 3 学校統合後に新たに設定される通学区域については、今後の児童推計、通学路の安全性、町会や自治会の区域及び青少年健全育成地区委員会の区域に配慮する。
- 4 学校統合後の跡地の活用については、地域の活性化や防災機能の向上等地域に資するよう、地域の意見をまとめ意見書に反映していく。
- 5 児童が落ち着いて学校生活を送れるように可能な限り心のケアや人的措置に配慮する。
- 6 統合後の学校は、記念室を設置するなど学校の伝統や歴史を保存するように努める。
- 7 今後、本協議会では、この基本的な考え方に基づき、板橋第九小・中根橋小・板橋第一小の教育環境の充実策について具体的な方策を意見書として取りまとめる。
- 8 教育委員会は責任と権限に基づき、意見書を尊重して方針を決定していく。

#### 《考え方(方針)》※A案B案C案の3つの案で構成されています。

【A案】 将来的には少子化が一層進み、学校規模の回復が難しいことから、学校としての活力(児童・生徒数、教員体制、学校行事を行う際の組織力など)があるうちに、学校の適正規模を確保し教育環境を整えていくために統合に向けた方向性を出していく。

【B案】 平成26年2月に「いたばし魅力ある学校づくりプラン」が策定され、過小規模化により対応を要する学校として板橋第九小学校が挙げられている。学校の統合を行う際は、現在の2年生以上はプラン策定前に入学した児童であるため、統合時期について一定の配慮を行う。ただし複式学級や児童数が極端に少ない学年が出現した場合はこの限りではない。

【C案】 来年の新一年生の入学数を見て、全校児童120名に達した場合は協議会を一時休会にする。達しなかった場合は、上記A案、B案のどちらかの案で検討をはじめめる。

なお、単独での閉校か近隣校との統合か、統合年度や統合方式などについては、歴史的経緯や地域の状況に基づき検討し、採択された事務局案に基づき、再度教育委員会事務局が詳細な案を検討し、協議会に提案することとする。

## 2.意見交換

委員：どれが正しい捉え方なのか、問題の捉え方が重要ではないでしょうか。協議会委員は立場が違うので、正しい答えが一つではないですが、そのためにこの協議会があるのではないのでしょうか。良い学校というのは、教員の指導力にあると思います。児童を特定の学校に押し付けるのではなく、みんなが行きたい学校を作っていくことが大事だと思います。個人の意見になりますが、教育の専門家である教育委員会が責任を持って、この協議で出された意見を尊重して意見(事務局案)をまとめていただきたいと思います。

委員：板橋第九小の子ども達が減少してしまったのは、地域に噂が広まり、学校選択制によって減少してしまったことが原因です。板橋第九小は、とても良い環境の学校ですし、何の問題もない学校ですので、無くす必要はないと思います。

委員：この協議会は、広く近隣の方々に周知をしておりますので、来年度以降の新一年生が減少してしまうのではないかと危惧しております。また、これから入学する保護者の方々の視点で考えると不安な気持ちになると思います。B案については、現在の在校生にとっては良いかもしれませんが、これから入学する子ども達のことと考えていく必要があります。個人としての意見ですが、A案を進めていってはどうかと思います。

委員：子どもを中心とした前向きなことを考えていただければと思います。子ども達に対して、しっかりと心のフォローをお願いしたいと思います。この協議会には、学校統合に詳しい方もいるので教育委員会に助言していただければと思います。

委員：区がしっかりとした基本的な考え方をまとめた指針を明確にしていくべきだと思います。学校の適正規模について話がありましたが、学校の適正な要因とは何なのか考えていく必要があると思います。今の子ども達を取り巻く環境には、いじめの問題であったり、家庭内における暴力であったり、様々な問題があります。こうしたデリケートな問題にきめ細かく対応していくためには、一体どのような人数が適正な人数なのか、また教育の方法がどのような方法が適正なのか検討していく必要があると思います。この協議会が学校を統合して人数を増やすと単純な議論でまとまるのではなく、これからの板橋区の学校として魅力ある学校を作っていくためには何が必要なのか、適正の要因とは一体何なのか協議をしていく必要があると思います。

委員：C案とも思いますが、来年度の入学生が50人程度となるのは現実的ではないので残されたA案かB案となってしまいます。私としては、A案B案のどちらでもなく板橋第九小の存続を望みます。現在の2年生は30人が入学しました。このような協議会や板橋第一小が3クラスとなるようなことがなければ、今年度の1年生も30人入学し、120人に達していた可能性は十分にあったと私は思っています。A案B案とあり、B案については、私達の主張を受け入れたことは理解していますが、板橋第九小の存続を望みます。

委員：今の2年生には、2年生が第1子という保護者が大勢います。今、私は、代表という形でこの協議会に参加していますが、アンケート調査等を実施して、皆さんの意見を協議会の中で反映させていければと思います。

委員：何人かの保護者と話しましたが、板橋第九小を選んで来ているので、できればこのまま卒業させたいとの声を聞きました。一番は、何も知らないで入学した30人が無事に卒業することですが、以後の入学者が減ってしまい複式学級が発生して、中途半端な形で終わってしまうリスクがあるとも思っています。できれば、30人が卒業するまでは、毎年6人以上の新入生がいればとも思いますが、子どもが成長していく過程には、縦の繋がりと下学年がある程度の人数いることも重要だとも思っています。いろいろと考えましたが結論には至りませんでした。

委員：この地域には学校が多すぎると思いますので、現在の在校生に最大限配慮する事を条件としてA案に賛成したいと思います。ただし、現状の児童数でも校庭の基準に達していない中根橋小にそのまま通学区域を編入することには抵抗があります。通学区域の変更については、周辺校である弥生小や板橋第八小も含めて検討してください。

委員：前回前々回と説明を受けた事務局案ですが、私達の意見もある程度反映しているので、一定の評価はさせていただいております。ただ、板橋第九小を無くさないこと以外で子ども達の事を考えた時に何が一番良いのかは思いつきませんでした。これだけの時間をかけて参考になる意見や資料等が出そろった訳ですから、そろそろ具体的な協議をしていく時期なのかもしれないとも感じています。

委員：板橋第一小は、校舎の建て替えを終えたばかりであり、現状では各学年2クラスなので空いている教室もあります。児童数が増えていくことについては、良い事ばかりではないかもしれませんが、施設を有効活用して頂くべきだと思います。ただ、保護者の立場で考えていくと来年再来年と入学される保護者の方は、不安で一杯だと思いますので、早急に結論を出していく時期にきているのではないかと思います。

委員：今まで沢山の資料の説明を聞きました。A案と思っていますが、先ほどの意見にもあるとおり、通学区域の変更も併せて実施していただきたいと思います。もっと明るく前向きな議論ができるように、分り易く具体的な方針や事例を提示して前向きに考えられるようにしていく必要があると思います。

委員：A案B案C案と説明を受け、皆さんの意見も聞いて、自分なりに解釈をしているところではありますが、私自身の考え方はまとまっておりません。

委員：会議も中盤となり、多少なりとも煮詰まってきたと感じております。事務局案の中に、基本的な考え方等が書かれておりますが、行政の枠にとらわれず児童のケアを第一に考えていく必要があると思います。子ども達が、安心して楽しく通学できるような環境を整えていくためにフレキシブルに考えていく必要があると思います。そろそろ、一歩踏み込んで、シミュレーションを実施して結論を出していく時期にきていると思います。

委員：それぞれ立場が異なるので、意見が一つになることは難しいとは思いますが。子ども達のことを考えると、あまり長引かせるのではなく、そろそろ煮詰めて方向性を出す時期にきているのではないかと思います。教育委員会が、子ども達がより良い環境で勉強出来るような学校づくりができるように検討していただければと思います。

委員：子ども達がこのままこの学校で卒業できるか不安なまま通学することは大変つらいことだと思います。子どもたちは大人が考えているより順応性が高く、可能性を秘めた子ども達ですので、子ども達が一日でも早く安心して学校に通える案を第一に考えていく必要があると思います。

委員：子どもが成長していく過程では大勢の中で色々経験を重ねて達成感を味わうことが大切だと思います。そのためには、一定の人数がいる方が良いと思います。この協議会に参加して小規模校の良さも理解しましたが、その良さというのは人数がいる学校でも出来ることではないかとも思いました。例えば算数については、習熟度別に少人数で学習する方が、メリットが大きいと思いますが、そういった部分については適正規模校でも少人数学習を取り入れているかだと思います。小学校での生活は、学習面も大切ですが、情緒面を成長させることも大切ですので、情緒面を成長させていくためには一定の人数がいることが大切だと思います。また、この協議会が長引けば長引くほど保護者や子供たちが不安に感じますので、早急に結論を出していくべきだと思います。

委員：先日の新聞の報道でもオリンピック施設の多額の建築費の問題が出ましたが、板橋区の学校施設の建築も税金を使うことなので慎重に検討すべきで、中根橋小は昭和40年後半に建設された学校ですのもっと古い建て替え時期の学校を優先すべきだと思います。しかし、箱物より中身が大切なのでそこも協議会で話し合っていきたいと思います。

委員：子ども達は通学している学校は異なりますが、この地域の将来を担う子ども達であることは変わりません。皆さんにお願いしたいのは、仮に統合となった場合、統合される学校の子供達が、統合される学校の児童であると感じない様にしていくことです。そのためには、周辺の学校と交流事業を行うなど児童と先生方が連携を密にしていく必要があると思います。

委員：以前もお話ししましたが、板橋第一小の改築工事の際は、板橋第九小を利用させていただき、様々な面でご迷惑をかけたかと思いますが、同じ板橋の子どもだからといったことで快く受け入れてくれたことを感謝しています。板橋第一小には様々な地域から子ども達が通学していますが、どの地域といったことはなく「みんな板橋の子ども」ということで接しています。この協議会でまとまった結論に従いまして、よりよい教育が受けられるようにしていきたいと思っています。

委員：今後、きちっと方向性が決まれば、出来ることは何でもしていきたいと思っています。仮に板橋第九小の子ども達が中根橋小に来ることになれば、どこの出身ということではなく、同じ板橋の将来を担う子ども達として接していきたいと思っています。先日、校庭のことが話題になりましたが、4月に着任以降校庭での大きな怪我や事故はありませんでした。休み時間の様子を見ますが、上級生や下級生が譲り合って遊んでいます。

委員：事務局次長です。一番共通した意見が、子ども達や保護者が不安にならないようにしっかりと対応してほしいといった内容だったと印象に残っております。過去に設置された協議会での協議の中では、事前に計画を策定して示すことに対して抵抗感がある方も多かったので、この協議会では、全体としての考え方を提示してその中で意見集約を図らせていただきました。今の在校生や今後入学する方々が不安に感じているので、具体的な検討をしていくべきとの意見をいただきました。今後、皆様から頂いた意見を集約させていただきたいと思います。

会長：本日の皆様方から出された意見をもとに、事務局の方で事務局案を練り直し、再度事務局案を提案していきたいと思っています。次回協議会では、その集約した事務局案に対して意見交換を実施したいと思っています。

#### 次回予定

- ・平成27年9月28日（月）午後6時00分から午後7時30分まで
- ・場所：板橋第一小いちょうホール ※月に1回程度開催する予定です。
- ・議題：集約した事務局案に対する意見交換等

発行元 板橋区教育委員会事務局 新しい学校づくり課 学校配置調整第二グループ

電話 3579-2090 FAX 3579-4214

※協議会の会則・協議会ニュース、次回の日程等は、区ホームページからご覧いただけます。

[http://www.city.itabashi.tokyo.jp/c\\_kurashi/067/067580.html](http://www.city.itabashi.tokyo.jp/c_kurashi/067/067580.html)